

# 日山協自然保護ニューズレター (平成 26 年春号)

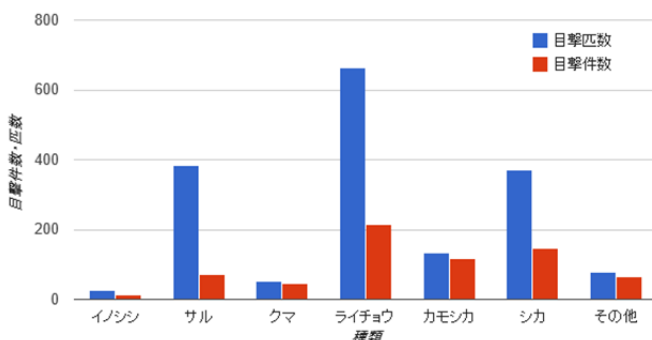
発行日 平成 26 年 4 月 1 日 発行元 公益社団法人日本山岳協会自然保護委員会

## 山の野生鳥獣目撃レポート

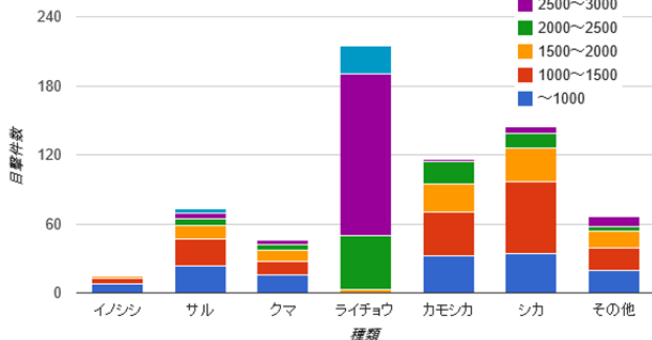
山岳団体自然環境連絡会（日本山岳協会ほか 5 団体）が運営するこのプロジェクトは、当初平成 26 年 3 月を以って終了としておりましたが、平成 25 年 10 月開催の連絡会で、引き続きレポートを受け付けることとなります。引き続き、ご協力をお願いします。

- 1) ホームページへのアクセス  
(2013/3/1~2014/3/1 の調査)  
アクセス数：1,916 件 閲覧ページ数：5,067 件  
アクセスの地域割合：東京 33%、大阪 9.5%、  
埼玉 7.2%、神奈川 6.1%、愛知 4.2%
- 2) レポート件数 (2014/3/17 現在)  
累計：685 件  
平成 25 年度年間レポート数：100 件
- 3) 集計結果  
詳しくは：ホームページにて公開中です。

目撃件数・匹数 種類別分布



標高別・野生鳥獣 目撃件数分布



(山の野生鳥獣目撃レポートホームページ)

[www.jma-sangaku.or.jp/conservation/yaseichoju/](http://www.jma-sangaku.or.jp/conservation/yaseichoju/)

## H25 年度自然保護指導員研修会

平成 26 年 1 月 18 日、国立オリンピック記念青少年総合センターで関東各県から 49 名を集め、東京都山岳連盟自然保護委員会の主管により開催された。

基調講演では、上幸雄氏（NPO 山の ECHO 代表理事）による「自然の聖地「山は神であり、神々が住む処」と題し、「禁止や規制が主体の自然保護活動には限界を感じる」とし、それを越える活動は何かとの課題に対し一つ解を導き出すとの内容の講演を行った。その中で、氏は「山の持つ精神性・文化性を再発見して、山の自然を守り、それを適正に利用することに結び付ける。また、山を崇めるといふことを考え直し、古くから山を神に見立てた先人たちの発想を振る帰りに、今でも息づく里山社会の『山の神』信仰のように、守り神として自然を崇拝する心を再発掘することで、自然の持つメンタルな面に光をあて、新しい自然保護の在り方を見出そう。」と提案した。IUCN（国際自然保護連合）で策定された『保護地域管理者のためのガイドライン』にある自然域を「聖地」とする考え方に学び、「自然の持つ精神的な価値観をフィールドの利用の観点から取り込み新しい自然保護の在り方に貢献させるべきである」と講演を結とんだ。



講演のあと、都岳連自然保護委員岡田博行氏による『自然保護活動の現状と課題』と題し、山を傷つけないローインパクト登山、開発と自然保護の対立、里山・林業などの二次的自然の荒廃、自然（公園）のオーバーユーズ、水質汚染やトイレ問題等の事例での提起と山の荒廃の原因などが示された。

その後に行われたグループ討議では、共通テーマを「持続ある山の管理」とし、「利用者負担」、「景観保全」、「トレイル ランニング」、「自然保護指導員は何を出来るか」の 4 件のサブテーマにグループ討議が行われた。討議概要は以下のとおり

### ◆「利用者負担」

- 入山料、トイレの有料化について討議した。
- ・入山料については条件付きで全員が賛成
  - ・全国同一である必要はない。
  - ・入山料の使用目的の明確化、
  - ・管理の公表、地元へ還元する。
  - ・トイレの有料化は全員一致で賛成、
  - ・トイレの使用料は入山料とは別徴収が良い
  - ・全国共通の券的なものもありか
  - ・山へ小銭の持参を呼びかけ

◆「景観保全」

自然景観とは何か、一度壊れた自然を如何にして復元し、そして、それを守ることにについて討議した。

- ・ 崇め感謝を捧げてきた自然の精神的価値。
- ・ 荒れている山と自然の豊富な山があるが何故か？
- ・ サービス過剰・営業本位の小屋の必要性
- ・ 入山料は人の意識を変える。海外では当然である。
- ・ 自然の地形に基づいた緩やかな道作りが必要。
- ・ 入山者への教育・啓蒙など力を入れる必要。

◆「トレイル ランニング」では、

自然保護観点からトレイルランニングを討議した。

- ・ 山を走る行為は環境への負荷が高く危険
- ・ 環境負荷は集団登山と大差なし
- ・ トレランとトレランレースは分けて考えるべき
- ・ 人数、季節、標高や地勢を考えたコースであるべき
- ・ レース・ガイドラインの早急な確立を期待
- ・ 山岳環境への負荷の科学的な検証が要
- ・ 一部ランナーのマナーの悪さがイメージを悪化

◆「自然保護指導員は何を出来るか」では、

個人や団体で出来ることについて討議した。

- ・ 個人では、地道に山の中でゴミを拾い
- ・ 登山者から質問あっても答えられるよう勉強
- ・ 団体として登山道を整備、勉強会の開催の必要性、
- ・ 道迷い防止への果たす役割
- ・ 腕章を着用は義務か・推奨か



自然保護ブログページで情報発信中

JMA山岳自然保護ブログページを昨夏から試行し、会議や行事の情報発信の本格運用を行っている。これらの情報を広く全国に発信することとし、自然保護関係者の講読を広く受け入れることとし、関係者のアクセスを期待している。また、一部のページでは意見の投稿も受け入れている。



(JMA山岳自然保護ブログページ)

<http://mountprotection.sblo.jp/>

掲載内容

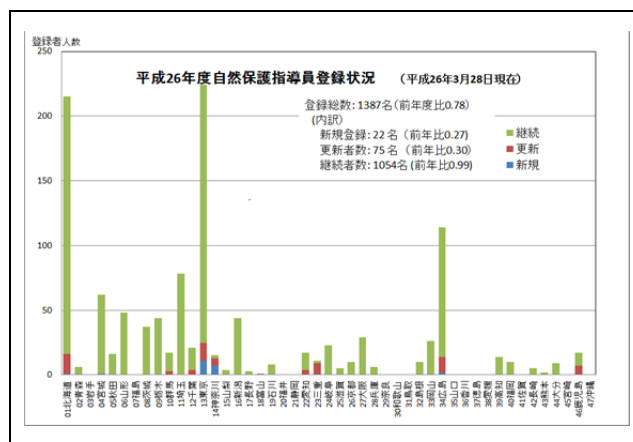
- ◆日記
- ◆実施レポート
- ◆意見・アップ
- ◆開催案内
- ◆参加レポート
- ◆情報
- ◆会議等報

平成 26 年度自然保護指導員登録更新受付状況

平成 26 年度自然保護指導員は 3 月 28 日現在で、新規 22 名、更新 75 名を受付した。いずれも前年を下回る状況です。

自然保護指導員の登録数は年々右下がりの状況にあり、この状況の改善に向け、より一層のご協力をお願いします。

登録期限を過ぎて更新を未申告の方がいます。現在の未申告の状況は、平成 24 年度 103 人、平成 25 年度 96 人、平成 26 年度 15 人となっております。登録期限を過ぎて再開をご希望の方におかれては、是非とも更新の手続きをお願いします。



山と自然の聖地研究会

山岳自然保護への視点を、古くからの日本人の古くからある精神的価値観に立ち戻って考え直してみる動きから「山と自然の聖地研究会」が活動を開始した。

日本の国土面積の70%が山である。日本の伝統的土地利用は奥山や里山と密接な関係で成り立ってきた。山里では今も「山神」を崇拝する風習が残る。その背景にあるのは、山の自然に潜在する力の存在を感じて崇めることで、その力の庇護や恩恵を感謝しつつ、山と自然を守り、適正に利用することで地域の安全や山からの恵みを生活の糧にしてきた。



この研究会は、山と自然の聖地に関する歴史や文化、施策を学び、発信することで、山岳信仰や自然崇拝を再評価し、山での精神文化の高揚を図る。その成果として、新しい時代の山での自然保護と適正利用のあり方を創り出し、山の自然と文化の社会的な価値の認識を深め、登山もつ精神的価値の再発見につなげ、山岳自然保護のモラルやマナーの向上に寄与させて行こうとするものです。

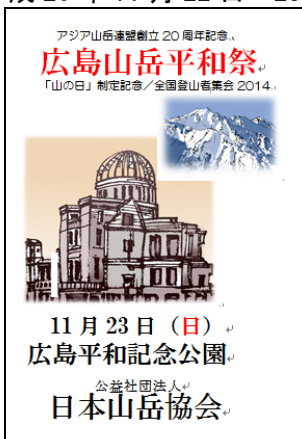
この研究会のメンバーには日山協の自然保護常任委員も加わっており、広く活動を進めることを考えている。研究会では当面、第一回のイベントを次の通り開催を計画しており、多くの聴講を呼び掛けている。

- 「第1回 山と自然の聖地研究会」の開催
- ◆日時 4月28日(月) 18:00
  - ◆会場 ニュー新橋ビル(ニュー新橋ビル B2F)
  - ◆主催 山と自然の聖地研究会
  - ◆講師 吉田尚也氏  
(IUCN-J 国際自然保護連合日本プロジェクトオフィス、  
『保護地域管理者のためのガイドライン』訳者)
  - ◆参加費 1,000円(資料代)



### 第38回 自然保護委員総会の開催検討

第38回自然保護委員総会は、平成26年11月22日～23日、広島市での開催で計画が進められている。この期間がアジア山岳連盟20周年記念行事の世界山岳平和祭が併催されることもあって、アジア地区の山岳関係者との交流が期待される。



詳細については、主管の広島県山岳連盟で検討が進められているが、現時点の計画案は次の通りです。関係者の奮っての参加を期待しています。

- 開催期間 平成26年11月22日～24日  
開催場所 広島市
- 主な日程
- 11月22日午後 受付  
委員総会(全国大会)
  - 同 夕刻 交歓会(国内)  
(宿泊:市内宿舎を予定)
  - 11月23日午前 山岳平和祭(平和記念公園)
  - 同 午後 世界自然保護集会
  - 同 夕刻 アジア各国との交歓会  
(宿泊:市内宿舎を予定)
  - 11月24日午前 エキスカーション(未定)
  - 11月24日午後 解散

### 都岳連 カタクリ・パトロール

公益社団法人 東京都山岳連盟自然保護委員会ではカタクリの群生で知られる奥多摩の御前山でカタクリ・パトロールを実施している。平成10年から実施してきたこのパトロールでは、カタクリの盗掘監視のほか、安全登山、山のマナーなどの啓発活動のほか、水場の水質調査を実施してきた。保健所に分析を依頼して得た結果から水質汚染を浮き彫りにするなど効果を上げてきた。

開花まで7年もの年月をかけるカタクリを心ないハイカーの盗掘から守るため、開花時期に合わせて、パトロールやロープを設置して保護活動を行っている。また、入山者が過密のから起こる水質汚染(し尿処理が一因とも思われる)の問題を考え、汚染防止に向けたアピールとして御前山頂上で携帯トイレ用のテントの設置を行うなどして山でのトイレマナーの順守を訴えてきた。



同自然保護委員会では、今年もこのパトロールを次の通り予定しており、自然保護指導員や山岳環境問題に関心のある方のカタクリ・パトロールへの参加協力をよびかけている。

- 期間
- 4月19日(土)～29日(祝)、および5月18日(日)
  - ※開花状況により変更あり。
  - 4月19日は保護柵の設置、5月18日は撤去日です。特に多くの方の参加を。

- 集合
- JR 武蔵五日市駅
  - 平日: 9時、土・日・祝日: 8時、
  - 5月18日(日)は9時

- コース
- 月夜見第2駐車場～御前山
- 持ち物
- ザック・軍手・ゴミはさみ、行動食、
  - 通常のハイキングスタイルでご参加下さい。特に初日と最終日は荷物が多いため、大きめなザックを持参

参加の詳細については次のURLをご覧ください。  
<http://mt-shizen.org/>



## 神奈川・埼玉 山の自然セミナー

2月22日から23日の2日間、神奈川県山岳連盟と埼玉県山岳連盟が共催して、それぞれの自然保護委員会及び一般参加を受け入れ山の自然セミナーを神奈川県立山岳スポーツセンター（神奈川県秦野市）で開催し、39名が集まった。

ももとは、神奈川県山岳連盟の独自行事として、日山協自然保護指導員の養成講座としてはじめられたものであったか、広く山岳環境について学習の機会にしようと、2年前に一般公開とし、「かながわ環境出前講座」（県職員が出向いて行う制度）を利用して、山岳環境をテーマに専門職による講演を主体に実施してきた。

今回の開催は、神奈川・埼玉の連携と、自前講師など「自力」で講座運営をおこなった。テーマは登山者の視線で森林再生を考えようと、第1日目は「自然を友達にするレクチャー」（座学）と「もっと語り合おう」（夕食・交流会）、第二日目に「山へ行こう」（表丹沢の森林施業地で現地講座）を行った。

第1日目は、「神奈川の森と自然」を演題に神奈川岳連の紅葉淳一氏が講演。林業が低迷する中、森林を含む山の環境が悪化の一途をたどっており、かつて林業職であった自分の立場としては心苦しいとし、「毎年の成長量に見合う分の立木を伐採、植林することで、持続的な森林経営を実現させる森林づくり「法正林」を普及して、林業経営で森林が整備出来るように」と林業経営の改善が山岳自然保護には必要と説いた。

この講演の後、「自然保護指導員の勧め」と題したレクチャーと、各岳連の自然保護委員会の活動状況が発表された。

レクチャー閉講後、センター内食堂で夕食を兼ねた懇親会を行い、自己紹介を兼ねた各自の発言を皮切りにして、全員の熱気で盛り上がった。

第2日目は、表丹沢で行われている森林施業地を巡検し、講師の紅葉氏から、造林地の整備について実地の説明が行われた。2月中旬の降雪が相当残雪しているなか、雪山登山が半分味わいながらの巡検となった。本来神奈川岳連が二ノ塔で行っている植樹活動地へ向かう予定であったが、余りの降雪深さに途中下山となり、その分、紅葉氏からの森林施業の説明に力が入った。



## 自然保護指導員の手引き

自然保護委員会では、5月の発行を目標に、「自然保護指導員の手引き」の改定発行を進めている。既発行の手引きの比べ、ページ数を減らなど簡素化した構成にするとともに、実用的な内容を盛り込むよう編集作業中です。

## 会議等

- ◆自然保護常任委員
  - 平成26年1月18日
  - 平成26年2月18日
  - 平成26年3月18日
- ◆山岳団体自然環境連絡会
  - 平成26年1月24日
  - 平成26年2月27日
  - 平成26年3月28日
- ◆山と自然の聖地研究会準備会
  - 平成26年2月5日
  - 平成26年3月6日
  - 平成26年3月17日
- ◆自然地域し尿処理技術セミナー
  - 平成26年2月13日

## 予定

- ◆自然保護常任研修会
  - 6月14～15日 御岳山
- ◆第三回関東地区自然保護交流会
  - 10月18日～19日 那須
- ◆第38回自然保護委員総会
  - 11月22～24日 広島市
- ◆日山協主催指導員研修会
  - 11月29日 代々木
- ◆自然保護指導員育成出前講座
  - (未定)

\*\*\*\*\*

編集後記 37回委員総会での提案を受けて、情報の疎通を目的にニューズレターの発行が常任委員会で季報とすることが決定され、初刊を迎えた。読者各位にとって、本発行が平素の活動の参考となれば幸いです。(松)



発行元  
公益社団日本山岳協会 自然保護委員会  
〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館  
☎ 03-3481-2396 📠 03-34891-2395  
HP [www.ima-sangaku.or.jp](http://www.ima-sangaku.or.jp)  
Blog <http://mountprotection.sblo.jp/>

発行日 平成26年4月1日  
発行番号 2014年春号 (2014-01 pub1)